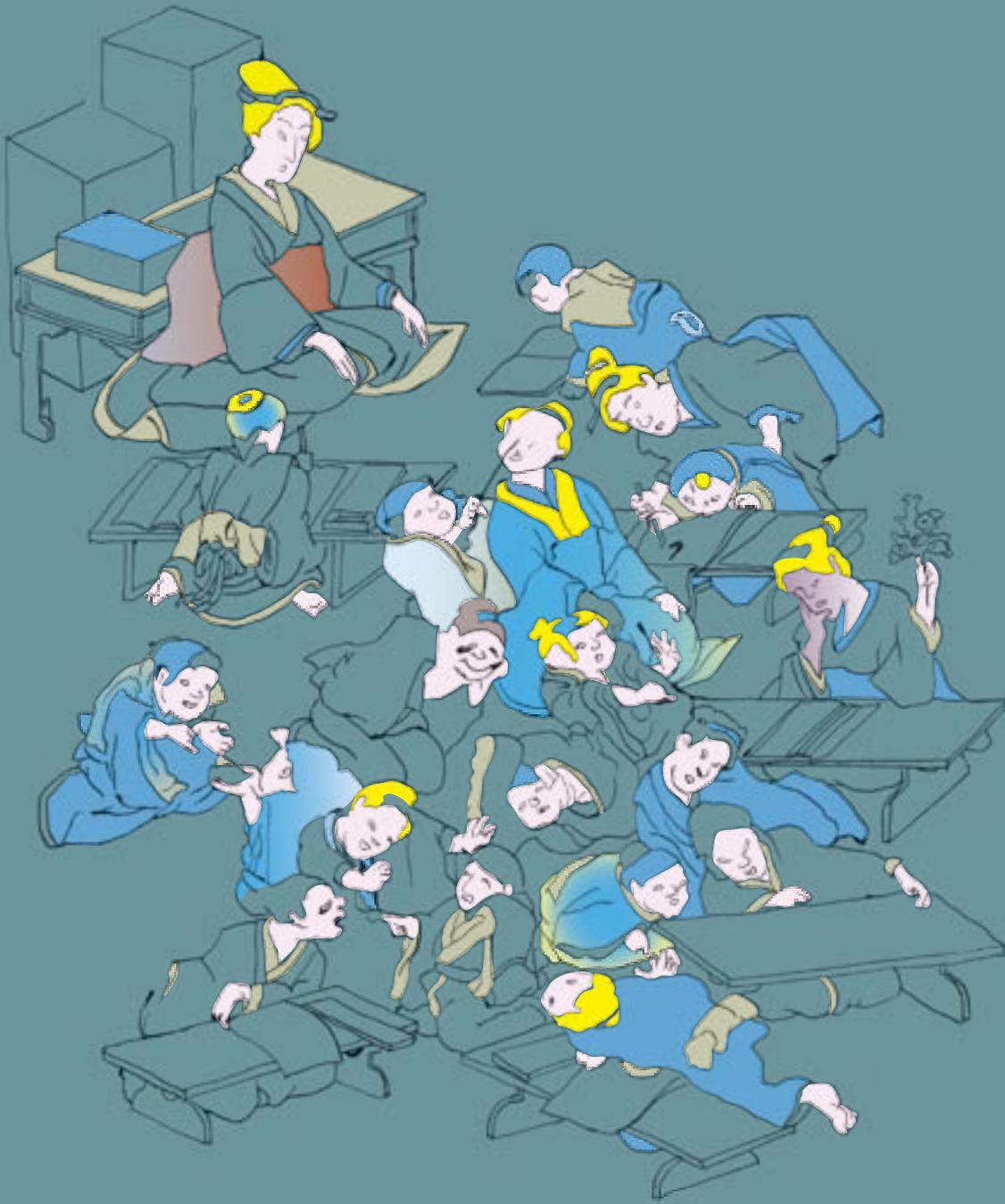


BankARTスクール

は、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化に活用したBankART 1929 Studio
グラムのひとつとして、二〇〇四年四月に開校しました。

BankARTスクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い講座までレベルはさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者、あるいは受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。BankARTスクールは日曜を除くほぼ毎日、休み無く開講しています。この二年もの間で七九講座、述べ二四一人の講師の方々をお招きしました。受講生は四歳のおじょうちゃんから八四歳のおじいちゃんまで、述べ一〇〇〇人をこえます。ぶっちゃけ話、これらの講座を受けたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。受けるだけではなんの役にも立たないのです。むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

BankARTスクール校長 村田真



BankARTschool

2006年度後期
12月-3月募集案内

BankART スクールの概要 基本的に週1回、2ヶ月間で全8回。定員は基本的に20名。時間は19時30分から21時30分(土曜日は15時から17時)です。場所は基本的にBankART Studio NYKになります。

スクール受講生の特典 受講生には、学生証を発行します。また、BankARTショップでの買い物5%割引、BankARTバブおよびカフェ1,000円チケットが10%割引となります。

アシスタントの募集 BankARTスクールでは、講座の記録やサポートをお願いするアシスタントを募集します。アシスタントは記録担当の講座を無料、その他の講座を半額で受講できます。意欲のある方のご参加をお待ちしております。

申し込み方法 受講したい講座名、お名前、ご住所、電話番号、メールアドレスをメール・FAX・電話のいずれかでお知らせください。その際に受講料の振込先をお知らせいたします。一講座15,000円(税込)、はじめての方は入学金3,000円(税込)も一緒に支払いただきます。また、講座によっては別途材料費や資料代がかかる場合があります。受講料、入学金をお振り込みください。入金確認でき次第、手続き完了となります。なお定員になり次第、申し込み受付を終了させていただきます。

お申し込み・お問い合わせ BankARTスクール事務局
school@bankart1929.com TEL 045-663-4677 FAX 045-663-4745

BankART Studio NYK 〒231-0002 横浜市中区海岸通 3-9

BankART 1929

横浜発祥麦酒乃旅

12月11日・18日・25日 / 1月8日・15日・22日 +道志村ツアー +妻を見に行くツアー



横浜発の国民飲料といわれるビール。今回は「横浜発祥麦酒乃旅」と題し横浜のビールをめぐる話題をたずねる。芸術麦酒製造構想、ラベルデザイン、横浜で生産される「麦」、原料の「水」。ビールをひとつの文化として捉え、都市と郊外をビールがつなぐ様子が見えてくる。実際に道志村や麦の生産現場を訪ねるほか、「飲」も楽しむ講座。
講師予定：緒賀道夫(芸術麦酒プロジェクト)、榊 弘太(芸術麦酒プロジェクト/横浜ビール株醸造長)、竹内昌弘(横浜市環境創造局農地保全課)、久保田照文(横浜市水道局浄水部長)、佐藤太志(道志村の明日を創る会会長)、ヤング荘(デザインユニット)、古市久美子(芸術麦酒ラベルデザイン&ネーミングコンペティション大賞受賞)、シロガネミキ(同コンペティション桃賞受賞)ほか

進士五十八ほか 進士の「都市と自然」シリーズ:都市と自然とランドスケープ

12月5日・12日・19日・26日 / 1月9日・16日・23日・30日



環境・造園・庭園などランドスケープ分野の第一線で活躍、政府や自治体の緑・都市・景観行政にも深く関わってこられた進士五十八氏らが「都市と自然」について広く深く考える。講師は進士氏のほか山道省三氏、青木いづみ氏ら。緑地生活/都市自然/都市社会と「農」/エコシティ/百姓のデザイン/日本の庭園美/高層景観/園芸福祉
進士五十八：日本学術会議会員。東京農工大学教授。これまでに東京農大学長、日本都市計画学会会長など歴任。現在は日本野外教育学会会長、自治体学会代表運営委員など。主な著書に『日本の庭園』、『アメニティデザイン』など多数。

木下長宏 美術批評入門—実践篇

12月6日・13日・20日・27日 / 1月10日・17日・24日・31日



BankARTスクール10-11月期間講の「美術批評入門」の続編。「入門」では、美術批評はどうあるべきか、について考えました。「実践篇」では、じつさに作品に接し、それを批評した原稿を提出してもらい、課題などの評価し合いながら、「書く」実力をつける機会にしたいと思えます。理題など、進行具合をみながら、そのつど決めていきます。*実践篇からの受講も可能です。
木下長宏：美術評論家。1939年生まれ。元横浜国立大学教育人間科学部教授。専門は日本近代芸術思想史。「土曜の午後ABC」主宰。主な著書に『岡倉天心』『ゴッホ』『増補・中井正一』『大学生のためのレポート・小論文の書き方』など、共著に『イエスとはなにか』など多数。

大田通貴+森山大道 写真を見せていくということ。

12月7日・14日・21日・28日 / 1月4日・11日・18日・25日



写真を撮るという事には、実は写真をどう見せていくかということが深くかかっています。選び方見せ方によって写真は全く異なったものになっていきますし、見せていくことによって撮り手自身も変わっていきます。写真を選び、構成していく、具体的な本を通して作家と語り合う。そうしたことを通して写真に関する何かを伝えられれば、と思います。
大田通貴：1956年東京生まれ。深瀬昌久「鴉」を皮切りに86年より「蒼穹舎」として写真集の出版を始める。近年では森山大道、石内 都、尾仲浩二等現在までに92冊の写真集を制作。
森山大道：写真家。1938年大阪府生まれ。主な写真集に『続・にっぽん劇場写真帖』『大阪』など。2004年カルティエ現代美術館で大規模な個展が開催、以後も海外で多数の個展が開かれている。

岡部友彦+福島慶介 都市プロモーションメディア作成塾

12月8日・15日・22日・29日 / 1月5日・12日・19日・26日



建築・都市を題材にした作品をはじめとして、メディアアートなど幅広く映像作品を紹介していく。講義と平行して行われる横浜歴史的建造物プロモーションムービーの制作過程の一部を、実際に講義内で行う。その他には、「PopulouSCAPE」、「KOTOBUKI.Promotion」での映像テクニクの紹介、そして、自作ムービー作成なども行う予定。
岡部友彦：東京大学大学院修了後、横浜寿町にて地域再生プロジェクトを手掛ける。建築、映像、インスタレーションなども行う。
福島慶介：東京大学大学院在籍。建築をベースに、グラフィックデザインやアニメーション制作まで幅広く視覚表現を手がける。
代表作に「PopulouSCAPE」、「KOTOBUKI.Promotion」など。

村田 真 村田 真といく美術館ツアー

12月9日・16日・23日 / 1月6日・13日・20日・27日 / 2月3日 (入館料・交通費などは各自負担)



美術館はどのように成り立ち、どんな人たちに支えられ、これからどこへ向かうとしているのでしょうか。BankARTスクール校長の村田 真とともに横浜や東京の美術館をたずね、展覧会を鑑賞します。また、可能な限り芸術員に話を聞き、収蔵庫や学芸員室、搬入・搬出口などのバックヤードも覗かせてもらい、美術館への理解を深めます。横浜美術館「アイドル！」/森美術館「ピル・ヴィオラ展はつゆめ」/原美術館「ジェイソン・テラオカ展」/東京都現代美術館「MOTアニュアル2006/中村宏展」/国立新美術館「20世紀美術探検/黒川紀章展」など予定
村田 真：美術ジャーナリスト。朝日新聞、ウェブマガジン「artscape」などに執筆。BankARTスクール校長も務める。

コトバノアトリエ 小説アカデミーin横浜

対象：中高生

12月9日・16日・23日/1月6日・13日・20日・27日/2月3日 10日・17日・24日/3月3日・10日・17日・24日・31日
中高生向けの小説の書き方講座。編集者や作家の方を月に一度ゲストに迎えながら「書くこと」を「読まれる」まで一つのコミュニケーションと捉え直し、読み手の表情の変化が見える環境を創出します。今書きたいことを「カタチ」にする為のワークショップ。

伊藤キム ダンスを批評してみよう

2月5日・12日・19日・26日 / 3月5日・12日・19日・26日



若手ダンサー・振付家1名(作家)が、全8回のうち数回、30分程度の試演会を行い、そのつど講座の受講生が批評を加えます。そして8回目にはダンス作品として発表していただきます。受講生には批評しながら作家を育てる機会に、作家には外部の意見を聞きながら創作する機会になります。ダンス作品を発表する作家も併せて募集します。
伊藤キム：振付家・ダンサー。1987年、舞踏家・古川あみぎに師事。90年ソロ活動を開始。95年ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」を結成。国内はもとより、フランス・スペイン・アルゼンチンなど海外での公演も多数。近作に《激しい庭》、《禁色》、《未来の記》など。

photo: Nobutoshi Takagi

伊藤有彦 + I.TOON 立体アニメーションワークショップを学ぶ

2月6日・13日・20日・27日 / 3月6日・13日・20日・27日



クリエイティブアニメーションのワークショップをやってみよう方や教育関係者などを対象にした講座。コマ撮りソフト「CLAYTOWN」を使ってアニメーション制作を体験し、ワークショップへの取り組み方を学びます。また、技術解説や作品鑑賞なども行います。アニメーション制作の楽しさと奥深さを体験し、子供達と共有してみたい方、ぜひご参加下さい。
*WINDOWSパソコン持参、および材料費がかかります。
伊藤有彦：アニメーション・ディレクター。東京生まれ。東京芸大デザイン科卒。CGプロダクション、フリーランスを経て、98年 I.TOON Ltd.を設立、同代表。主な作品に「ニャッキ！」(NHK教育)、宇多田ヒカル『traveling』MV(クリエイティブアニメーション監修)、平井 堅「キミはともだち」MVなど多数。

飯沢耕太郎 写真作品 ポートフォリオを作る

2月7日・14日・21日・28日 / 3月7日・14日・21日・28日



自分の作品をプレゼンテーションするためにポートフォリオ(ファイル)を作ることは、写真家としての活動の第一歩です。3回目になる本講座では、写真評論家としての経験を踏まえて、具体的にアドバイスしながら各自のポートフォリオを作成していただきます。できればそれらの成果を発表する機会も設けたいと考えています。
飯沢耕太郎：写真評論家。1954年宮城県生まれ。84年筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。以後、フリーの写真評論家として活動。主な著書に『都市の視線』(平凡社)、『ジャパニーズ・フォトグラファーズ』(白水社)など多数。

©Emi Anrakuji

渡辺 保 歌舞伎感覚旅行

1月25日 / 2月1日・8日・15日・22日 / 3月1日・8日 +補講



歌舞伎を見るには二つの方法があります。一つはテキストを徹底的に読み込んでドラマの骨格を知ること。もう一つは役者の芸の味を知ること。この二つを実践します。テキストは「摂州合邦社」。テキストを読み、義太夫を聴き、役者がどう演じるかを分析します。
渡辺 保：演劇評論家。1936年東京生まれ。慶応義塾大学経済学部卒業後、東宝入社。1965年『歌舞伎に女優を』で評論デビュー。著書に『名女形・雀右衛門』(新潮社)、『批評という鏡』(マガジンハウス)、『歌舞伎手帖』(講談社)、『歌舞伎 型の魅力』(角川書店)ほか多数。

建築を誘起する言葉：原スクールの建築家たち

2月9日・16日・23日 / 3月2日・9日・16日・23日・30日



建築・都市を熟知し、その新しい像を誘起するために、いかなる言葉が用意されるべきだろうか。「Discrete」=原 広司、「Fluid Direction」=小嶋一浩、「Sachverhalt」=太田浩史など、多くの建築家を輩出してきた東京大学原広司研究室のメンバーが、キーワードを交えて自らの建築・都市論を解説する。
講師：
原 広司 小嶋一浩 小泉雅生 山本理顕(調整中)
山家京子 太田浩史 ほか

深沢アート研究所 こども造形教室

対象：小学生

2月10日・17日・24日 / 3月3日・10日・17日・24日・31日



こども造形ワークショップは、工作や遊びを教えられるのではなく、あるテーマを基にこども自身で研究し発展させ形にするみんなのアートです。各回のテーマとなる「素材」「動作」「行為」などを、たのしくじっくり表現します。テーマ：「コロコロコース ver.BankARTSchool」「イタリアンシェフとクッキングして食べる」「紙のテントで造形キャンプ」など
深沢アート研究所：山添 joseph 勇とカブによる研究所。2003年4月、世田谷区深沢に「こども造形教室・緑化研究室/深沢アート研究所」を設立。BankART 1929 Yokohamaにて馬車道教室開校。こども造形の指導・講習会、地域や庭の緑化、造園など、こども造形と緑化の活動を国内外で展開。「食と現代美術 part1.2」にも参加。

ゲスト予定：雨宮処凛氏(作家) ほか

*この講座は、コトバノアトリエにより企画された講座です。時間は 15~18時、受講料は 2か月で¥10,000です。(BankARTスクール初めての方は入学金¥3,000もあわせていただきます) 12-1月、2-3月それぞれの受講も可能です。
コトバノアトリエ：若者が好きなことを仕事にできる社会環境の創造を目指して活動するNPO。これまで藤沢にて開講してきた小説アカデミーを、12~3月には横浜で開講。